

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目9番地1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様共に安心して過ごして頂ける終身対応型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、『利用者様本位』でできる力で生き活きと!!』を施設理念とし、スタッフ一同支援させて頂いています。特浴室が設けてあり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能となっています。現在は、介護度の高い方が多くなれば、活動に制限がありますが、毎月、音楽療法を行い、懐かしい歌や季節を感じられる歌に触れて頂き、少しでも楽しい時間を過ごしてもらえるようにしています。また、近隣にある喫茶店や食材買い物時に一緒に出かけたり、散歩に行ったり、外気に触れ気分転換して頂けるようにしています。運営推進会議では、消防署や交番等にも参加を呼び掛け、情報交換をしたり、自治会行事や中学校の体育祭見学をさせて頂いたり、地域とのかかわりを大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの状態に合わせ、持てる力でできる事をやらせ、笑顔で穏やかに過ごしていただける支援をしている。看護体制が手厚く重度者も受け入れている。利用者に合わせて職員が手作りの拘縮予防クッションやベッド柵カバーを作成している。耐震に優れた鉄筋3階建てである事業所の特性を活かし、災害時に地域住民の避難場所としての受け入れを自治会より受託している。外部評価での自己評価は全職員で取り組み、事業所の現状把握と職員自身の振り返りの機会としている。事業所の全体会議で出た意見や気づきは、全職員が質の向上につなぐ意識付けや自己啓発の場になっている。産休後も復帰する職員が数名おり、働きやすい職場環境であり、馴染みの職員が多く、利用者にとっても安心して過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で独自の理念を作り、毎月の全体会議時に唱和し、理念に沿ったケアができていのか振り返っている。ご利用者様のできる力を活かして、地域の中で暮らし続けられるよう、笑顔で取り組んでいる。	法人の方針に基づき、職員で作った事業所の理念を毎日の業務のなかで意識づけて実践している。利用者一人ひとりの力がどんな場面でも活かしているかを毎月話し合っている。年2回の自己評価で振り返りもしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の喫茶店や散歩へ行き、地域の方と話す機会を作っている。近隣の方や学生から挨拶や声をかけてもらう事もある。自治会の行事や中学校の体育祭見学をさせて頂いたり、事業所の理解を深め、交流するように努めている。	住民と触れ合う機会となる地区行事に参加したり、散歩や買い物時に職員から声をかけたりしている。会議室の使用や行事への参加を住民に呼びかけているが、日常的な交流までに至っていない。	気軽に住民と交流できる働きかけや工夫が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けている。運営推進会議では、自治会長様・民生委員様等地域の方やご家族様に活動状況を報告すると共に、認知症に対する理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告を含め、事業所の実情を報告し、全参加者にご意見をお聞きしている。その報告書や会議録は、全利用者のご家族様に郵送させて頂いている。指摘事項に関しては、全体会議の場で話し合い、解決するようにしている。	消防署員・駐在員・保育所や中学校等の職員にも参加を要請し、家族が参加しやすい日曜日開催もある。防犯や災害発生時の助言もあり、意見を取り入れている。外部評価の結果も会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修に参加し、情報を得て連携をとるようにしている。市役所に出かける際に、担当者の方に、最近の暮らしぶりや状態を報告し、相談しやすい協力関係ができています。	書類の手続き代行や報告書類の提出時は、直接担当者に会って良い関係ができるようにしている。担当者とは電話やメールでの情報交換も密に行い、不明なことはすぐ相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、国道に面しているという立地条件から、施錠させてもらっているが、散歩や気分転換できるよう外出する機会を作り、外気に触れられるようにしている。また、全体会議時の勉強会で身体拘束の内容や弊害について学び、介護度の高い方でも外出できるように努めている。	事業所入り口は自動ロック方式となっていて、入り口に利用者が近づけば、すぐに職員と一緒にベランダに出て外気に触れたり、気分を落ち着かせるよう対処している。行動を禁止したり抑制するような言葉にならないように職員同士が気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に虐待に関する勉強会を行い、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識が持てるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の全体会議時に勉強会を行い、全スタッフが理解や再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢をご説明させて頂き、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の暮らしぶりをお知らせする新聞や各受け持ち担当者からの手紙を送付させて頂き、近況を報告している。面会時はもちろんの事、ご家族様に年に一回、アンケートを実施し、ご要望やご意見をお聞きし、運営に反映させている。	家族アンケートの意見を集約し、家族に結果を報告している。家族の面会時は職員から声かけし、気軽に意見が言いやすい雰囲気となるように配慮している。手紙や電話で意見を聞く時もあり、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり、聞き出すようにしている。年に二回、ケアに対する振り返りを行う為に、まず自己評価を行い、その後、ホーム長立会いのもと、面談を行い、意見を聞くようにしている。	年2回自己評価し、リーダー・管理者・ホーム長が確認し面談で意見を聞いている。毎月の全体会議や日々の介護で意見を出し合い、全職員で検討し取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。スタッフのモチベーションが保たれるよう、研修案内をいつでも閲覧できる場所に置き、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内及び報告書は、いつでも閲覧できるようになっている。 資格取得についても呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人全事業所の管理者や介護支援専門員が集まるトップ会議あり、勉強会や意見交換を行って。 他の事業所の取り組みについて、良い事は施設内の活動に取り入れ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらい、安心して頂いたうえで入所申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様やご家族様より生活状況や今後の生活に対する思いを十分お聞きし、安心して暮らして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様のご苦労や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聴くようにしている。話を聴くことで、ご家族様が求めておられる事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーの方より話を聴き相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っていらっしゃるかを明確にしたうえで、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフは、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりして、働くものとしての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるように場面づくりや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話しし、情報共有に努め、ご本人様と一緒に支えていく為に、ご家族様と同じような思いで支援させて頂き、信頼関係をより深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、法事やお墓参り、外出に出かけられている。 友人や知人、ご親戚の方の面会時等もお茶やコーヒーをお出しし、ゆっくりと過ごしてもらえる環境作りをしている。	面会時間は特に限定せず、ゆっくりと過ごしてもらい、再来訪をお願いしている。声が聞きたいという利用者には、電話をかける支援をしている。家族の協力で夕食をお願いしたり、色々な用事を行ってもらったりする時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごすことができる時間の場面づくりをするなど、ご利用者様同士の関係がうまくいくよう、よき調整役になれるよう、スタッフ間で情報共有をし、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで施設で過ごされてきたご利用者の生活リズムの情報を詳細に提供し、他施設や病院等へ移られても、混乱が少しでも軽減できるよう、きめ細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	挨拶時に、その方のその日の気分や思いを把握したり、会話を通して思いを見つける事もある。 困難な方に対しても、会話に時間をかけ、行動や表情からよみ取るようにしている。	利用者の表情や仕草をよく見て、思いの把握に努めている。利用者が発した言葉は記録に残し、ゆっくりと時間をかけて思いを聞いている。困難な人には、答えやすい問いかけを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らしぶりや価値観等をよくお聞きし、大切にされてみえた物等は可能な限りお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃さないようにしている。毎月の全体会議後にケースカンファレンスを行い、スタッフ間で検討事項を話し合い、現状を全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフは、日々のかかわりの中での気付きを、毎月のケースカンファレンスの中で意見交換を行い、そのモニタリングから介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様のご希望、医師から指示がある場合は、介護計画に反映させている。	利用者や家族に希望を聞き、医師の意見も踏まえて計画を作成している。毎月全職員でモニタリングし、家族とも話し合いながら確認し必要時は見直している。状態変化時は話し合い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用することにより、情報を共有できるようにしている。プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容をもとに、担当スタッフが記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また、行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市、自治会長、民生委員、消防署の方より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。地域の中学校・保育園等にも会議への出席を呼びかけ、地域資源を活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様のご希望があり、かかりつけ医を協力医に変更され、往診を受けられておられる。看護師がオンコール体制となっており、ご利用者様・ご家族様に安心して過ごして頂けるようになっている。	かかりつけ医を受診する際は、家族に事業所での様子を説明し、書面で渡している。受診結果は家族から聞いている。緊急時は協力医の紹介状を持参し、看護師が付き添い受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフを配置しており、いつもと違うなという些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて、看護師がお見舞いに行き、その際、担当の看護師より情報を得ています。また病院側へも施設に過ごしてみえた様子をお伝えし、ご利用者様が安心して治療できるような関係づくりをしている。ご家族様とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて、その都度、説明し確認をとり、ご家族様・協力医・全スタッフが連携しながら最期までかかわる事もある。	入居時に事業所の方針を説明している。重度化した場合、状態変化の度に医師・家族・職員と話し合い連携を取っている。本人・家族に十分説明し、穏やかな看取りができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が到着するまでの対応についての勉強会を行い、落ち着いて行動できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している同法人の事業所と合同避難訓練を消防署と地域の方の協力を得て行い、避難方法の確認を行うと共に、ご利用者様と一緒に消火器を使用し、消火訓練を行い、災害に備えている。	職員・利用者・消防署員・地域の方が参加し、避難訓練を行っている。毛布を使い滑り台で利用者の脱出訓練をしている。非常用の備品は毎年消費期限も含め在庫の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレに誘導する際、必ず意思確認を行い、プライバシーを尊重した支援や言葉かけをするように心がけている。 各居室の透明ガラス部分には、中が見えないようにカーテンが取り付けられている。	排泄時は人前で目立たないように誘導し、カーテン・アコーデオンカーテンを閉めている。居室は声掛けをし、了解を得て出入りしている。一人ひとりに合った声を掛け、尊厳を傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身に問いかける言葉かけをする事で、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のコンディションに合わせて生活して頂けるよう、何に対しても最初から無理強いはしない。ご希望をお聞きしたり、表情からその方のお気持ちを読み取るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の、その日の気分等を考慮しながら、ご本人様に合うスタイルを保てるようにしている。何う事が難しくなられた方に関しては、ご家族様や知人の方におたずねし、その方らしさを保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況に合わせて、食事形態を工夫したり、ご要望があったメニューを取り入れたたりし、少しでもおいしく召し上がって頂けるようにしている。摂取に介助を要する方もみえますが、時間をかけ、個々のペースに合わせた支援をしている。	利用者の希望を取り入れ、旬の野菜を使い、行事食も工夫し調理している。利用者と一緒にホットケーキやたこ焼きなどのおやつを作ることもある。利用者の重度化もあり食事の準備や後片づけを手伝うことが少ない。	車いすの利用者は多いが、利用者ができる事をみつけ、一人ひとりの力を活かせるような支援を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少なく、栄養不足の恐れがある方に関しては、ラコール等を飲んで頂いたり、飲み込みが困難になってこられた方に関しては、水分のある物にとろみをつけたりし、なるべく経口から摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方には、お声をかけさせて頂き、ご自分では難しい方に関しては、口腔ケアスポンジや軟毛の歯ブラシを使用する等、その方に合ったケア方法で介助を行い、清潔を保てるよう努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や申し送りを基に、その方の排泄パターン・時間・その方のその時のご様子を見計らいながら、声かけや誘導を行っている。重度の方でも、立位が可能であるならば、二人で介助させて頂く等し、なるべくトイレで排泄できるようにしている。	排泄記録を参考にして、時間によりトイレ誘導をし失敗を減らしている。オムツの人でも日中は可能な限り二人で介助している。トイレでの排泄を行うなど自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の状態に応じて、牛乳やバナナ等を召し上がって頂き、自然な排便につながるよう努めている。また、水分量が足りていないと思われる方に関しては、お声をかけ、水分をとって頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴室が設けてあり、身体状況に合わせて入浴して頂いている。 ご利用者様の状況や気分に合わせて、声かけや入浴の順番を考慮しながら支援している。入浴時は、スタッフに色々な話を下され、コミュニケーションを図れる場ともなっている。	一人ひとり利用者に合わせた声掛けをし、入浴介助を行っている。入浴の順番や湯温の好みに合わせて、気分良く入ってもらえるよう配慮している。入浴できない時は清拭や足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせて、可能な限りいつでも居室にて休んで頂けるようになっている。また、リビングで傾眠されておられる方には、居室へご案内し、気持ちよく毎日を過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服用しておられる薬剤の冊子が、いつでも確認できるように置いてあり、目的や用量について理解したうえで、服薬介助に当たるようになっている。また、身体に異常はないかどうかを、常に把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり、新聞を折って頂いたり、日常生活の中で、スタッフと一緒にできる事を通して、気分転換してもらえ、また、生きがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、近隣の喫茶店に行ったり、気分転換を兼ね、ウインドウショッピングに出かけたり、安全に配慮し外出している。 地域の方々の協力を得ながら、自治会の行事に参加させて頂いたり、中学校の体育祭見学をさせて頂いたりしている。	利用者の体調や希望に合わせて、散歩を兼ねて近くの喫茶店やハンバーガーショップなどへ外出している。墓参や外食に行きたい希望があれば、家族の協力を依頼している。自治会の祭りでは金魚すくいをしたり、バザーで楽しめるようにしている。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安になられる方に関しては、ご家族様に了承を頂いた上で、ご自身で所持して頂けるようになっている。買い物についても、ご要望があった際や、気分転換を兼ね、スタッフと共に買い物に出かける事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望があれば、ご家族様に同意を頂いた上で、いつでも電話のやり取りができるようになっている。 手紙に関しても同様であり、こちらに届いた私信は、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに畳敷きの場所やソファを置き、ご利用者様が自由にテレビを見たり、会話を楽しまれたりできるように環境作りに努めている。 また、生活感や季節を感じて頂けるよう、配置や飾り付けを行っている。	リビングに加湿機能付き空気清浄機を使用し乾燥を防ぎ、定期的に室温を確認している。 壁には行事の写真・クリスマスや正月など各季節に合わせて職員が手作りした作品を飾り、季節感を採り入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の性格や能力を把握したうえで、座って頂く席を決定し、皆様にとって居心地の良い場所になるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の能力を考慮したうえで、畳をしかさせて頂いたり、ご本人様の好みに合った空間作りができるよう、写真や造花を飾ったりしている。 入所時に、使い慣れた物を持参してもらうよう説明をしている。	希望があれば、畳に布団を敷いて寝起きすることもできる。家族の写真を飾ったり、テレビ・布団・毛布を持ち込んだり、位牌を置き毎日お菓子や水を供えたりする利用者もいるなど、その人らしく過ごせる部屋としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるような物は撤去する。壁と机の間隔を調整する等し、独歩の方はもちろんですが、車いすで移動される方も、ご自身で動く事ができるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方らしい生活を支援させて頂く為に、『利用者様本位』できる力で生き活きと!!『笑顔あふれる江並「福寿苑」』と理念をスローガンにし、全スタッフで取り組んでいます。毎月の全体会議で唱和し、意識確認をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や自治会の行事に参加させて頂いたり、運営推進会議の際に、自治会長様・民生委員様・市議会議員様・消防署の方々に参加して頂き、情報交換やご利用者が地域の方と会話できる機会を持てるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けています。地域の方にも施設や認知症の方を理解してもらえよう、こちらから出かけるだけでなく、施設内の行事にも参加して頂けるよう呼びかけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と消防訓練を一緒に行い、状況を知ってもらうと共に、情報共有に努めています。会議の結果は、毎月の全体会議で報告や話し合いをし、サービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出時や運営推進会議時に、サービスの取り組みについての報告や相談をしている。県や市が主催する研修やケアマネージャーの研修会に参加し、情報交換に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面しているという立地上の問題から、生命を最優先する為に、各階の入り口は施錠させてもらっている。鍵をかける弊害について、全スタッフが理解しており、外出希望の強い方・入り口のドアを開けようとする方に対して、外気に触れて頂いたり、散歩に出かけたりと、個々に対応させてもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や市が主催する研修に参加したり、トップ会議の勉強会の年間計画にも入っており、毎月の全体会議時に報告を兼ね勉強会を行い、全スタッフが再認識できるようにしている。日々、ご利用者様一人一人のペースに合わせた支援ができるよう努めています。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様に日常生活自立支援事業を利用されておられる方もみえます。毎月の全体会議時の勉強会の計画にも入っており、全スタッフが再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にキーパーソンとなる方に、重要事項説明書を用いて分かりやすく説明させて頂いている。納得して頂いた上で、署名・捺印をお願いし、不明な点があれば、いつでも聞いてもらえるようお伝えし、聞きやすい環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の入り口にご意見箱を設置し、いつでも気軽にご要望を投函して頂けるようになっている。エレベーターに第三者苦情受付等のポスターを掲示している。毎年一回、ご家族様にアンケートを実施し、ご意見を運営に反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議は、夜勤者以外全スタッフが参加できるよう夜間の時間で行い、議題をあげて話し合いをしている。日頃からスタッフ間は、意見を言い合える関係となっており、その場で検討し、解決する事も多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限りは可能にし、働きやすいように配慮している。また、資格を取得し、キャリア アップ システムが実践できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内・報告書は事務所に設置し、いつでも閲覧できるようになっている。年に二回、ケアに対する自己評価を行い、その後ホーム長・管理者と面談し、次のステップにつなげられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者やケアマネージャーが毎月集まるトップ会議があり、情報交換や勉強会を行っている。良い事は、自施設の活動に取り入れたり、質の向上につなげたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、家族と共に施設内を見学してもらい、雰囲気を感じてもらうようにし、安心して頂いた上で、入所申し込みをして頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、まずは見学に来て頂き、雰囲気を感じてもらうと共に、ニーズを少しでも聞き出せるようにしている。 入所されてからは、何でも話せる環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーに相談させて頂いたり、ご本人様・ご家族様が何に困っていらっしゃるのかを明確にした上で、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は、人生の先輩であるという事を全スタッフは認識しており、普段から教えてもらう場面も多い。洗濯物を畳んで頂いたり、簡単な家事を手伝って頂いたりと日常的に会話を多く持てるような環境となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちスタッフよりも、家族の方と過ごしてこられた日々は、もちろん多く、その絆は計り知れないものであり、面会時や運営推進会議の際に、ご意見をお聞きし、ケアに反映できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方だけでなく、親類や友人や知人の方にも、いつでも面会して頂けるよう、面会時間を設けていない。ご家族様の許可があれば、ご家族様以外の方とも外出は可能である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様のADLや性格を参考にしながら、ご利用者様同士の会話が楽しめるような席の配置にしている。お互いに安心感をもってもらえるよう、なじみの環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で過ごされていたご利用者様の生活リズム等の情報提供に努め、他施設や病院に移られても、混乱が軽減できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつや飲み物を選んで頂く、何か召し上がりたいたいものはないかどうかを尋ねてみたり、ご利用者様の希望や意向の把握に努めている。言葉で意思を伝えるのが難しくなられた方に対して、なるべく思いが反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・これまで担当してみえたケアマネジャーより、今までの暮らし方や価値観等の情報を収集し、大切にされてこられたもの等は可能な限りお持ち頂き、安心して過ごして頂けるよう環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃してしまわないようにしています。毎月の全体会議終了後、ケースカンファレンスを行い、スタッフ間で検討事項を話し合い、現状を全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や関係者の方には、面会時や行事、必要な時は電話でやり取りを行い、ご要望等をお聞きしている。 ケースカンファレンスで全利用者のモニタリングを行い、目標達成度を確認し、プラン作成につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている。 プラン評価に関しては、受け持ち担当スタッフが記入し、ケースカンファレンスで内容を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調がすぐれない方には、食事形態を工夫したり、ADLに悪化がみられた方に対して、入浴を一般浴から特浴に変更させて頂く等、個々の心身状況に合わせた支援を行っている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長様・民生委員様・消防署より、情報を頂いたり、日頃から何かあった場合の協力関係をお願いしている。地域の他の方にも、運営推進会議に参加して頂けるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前までのかかりつけ医やご希望に応じ、他の医療機関を受診する事も可能である。現在はほとんどの方が、協力医にかかりつけ医を変更され、月に二回の往診を受けておられる。異常時は報告し、指示を受け、適切な医療が受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時はもちろんの事、小さな変化でも相談し、処置等の対応が早期発見し、できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会させて頂いたり、ご家族様と連絡を取り、情報収集に努めている。入退院時には、サマリーや病院関係者と情報交換し、ご利用様が安心して医療や介護が受けられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族様に終身介護についてのご希望を確認し、同意書をとっている。異常時や変化があった場合は、その都度ご家族様に意向を確認し、その旨を看護師が協力医に相談や調整を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議の勉強会でマニュアルを基に、実践を行い、急変や事故発生時に備えている。個々のご利用者様の異常指示書が作成しており、介護スタッフが落ち着いて対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一回、隣接する同法人の事業所と合同で避難訓練を、ご利用者様と一緒にを行い、もう一回は、夜間を想定した召集訓練を行っている。二階階段と入り口に災害用の食料や物品を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一つ一つの動作を介助する際、穏やかに応じて頂けるよう、必ずお声をかけ、安心感を持って頂けるよう努めている。 トイレ誘導の際は、ご本人様のそばまで伺い、お声をかけさせて頂き、支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の人格を尊重し、押し付けるのではなく、まず気持ちを伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用様には、それぞれの人生があり、その方の生き方を尊重し気持ちに寄り添うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に伺う事は難しくなってきましたが、衣類整理や衣替えを一緒に行い、ご本人様に選んで頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせ、食事形態を工夫し召し上がって頂いている。 季節の食材等を取り入れた食事をお出しするようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく経口から摂取して頂きたいと考えており、飲み込みが困難になってこられた方には、水分のある物にとろみをつけさせて頂いたり、主食をお粥に、副食をキザミやペーストにさせて頂いたりし、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関しては、なるべくご自身でして頂けるよう、お声をかけ、お手伝いさせて頂いている。ご自身で行う事が難しい方に関しても、必ず声をかけ、口腔ケアスポンジや柔らかい歯ブラシを使用する等し支援させて頂いている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や申し送りを基に、ご利用者様の排泄パターン・時間・その方のその時の様子を見計らいながら、声かけや誘導を行っている。なるべくゆっくり排泄できるように、スタッフ間で連携しながら、便座に座られている時間等にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様に合わせ、おやつ時にバナナやヨーグルトなどを召し上がって頂いている。また、腹部をマッサージさせて頂き、少しでも自然排便となるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴室があり、身体状況に合わせて、入浴できるようになっている。入浴を拒否される時は、入られる順番を変更したり、また別の日に入ってもらえるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調等に合わせ、日中も休んで頂けるようにしている。空調に配慮し、冬場はご利用者様によって、湯たんぽを利用される方もおみえになります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフがいつでも確認できるように、個々のご利用者様が服用されておられる薬に関する冊子があり、薬の目的や形態・副作用・注意点等が記載されている。内容を理解したうえで、服薬の支援を行うと共に症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、食事前に体操を行ったり、洗濯物がある時は、お手伝いしてもらったり、楽しみをもってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元のお祭りや、中学校の体育祭見学に出かけたり、気候の良い日は、気分転換を兼ね、散歩や喫茶店に出かけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材購入の為に仕入れる際、スタッフと一緒に買い物に出かけたり、気分転換の為にウィンドウショッピングに行ったりしている。財布を持っていないと不安になられる方に関しては、ご家族様の了承のもと、所持頂く事も出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話や手紙のやり取りができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに畳敷きの場所やソファを置き、ご利用者が自由に会話を楽しんだり、テレビを見てくつろげるような環境である。また、壁面に季節の飾り付けをし、生活感や季節を感じられるような空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のご利用者が落ち着いて過ごして頂けるよう、また気の合う方同士、歓談できるような席の配置を日頃から心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者に落ち着いて過ごして頂けるよう、入所するまでに使用されていた物や、写真等を飾ったりと工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の残存能力を活かし、できる事・分かる事を安心して、また安全に過ごして頂けるよう日々工夫している。混乱される場合は、ご家族様に相談させて頂き、ご本人様にとって何が良いのか、その都度、検討している。		